

第1回 航空燃料供給不足への対応に向けた官民タスクフォース 議事要旨

日時：令和6年6月18日（火）14：00～15：30

場所：経済産業省別館2階 238会議室

議題：

- （1）事務局からの説明（国土交通省・資源エネルギー庁）
- （2）意見交換

事務局（国土交通省航空局及び海事局並びに経済産業省資源エネルギー庁）からの資料説明後、構成員からの主な発言は以下の通り。

- 航空会社の就航が計画通りに進展しなくなることは、航空ネットワークの毀損であり航空業界にとって大きな懸念材料であることから、航空燃料の供給不足について、官民一体となって短・中長期的な解決策を講じるべき。
- コロナ禍からの需要回復に対して輸送が対応できていない。短期的な解決は難しいが、内航船やタンクローリーによる製油所からの輸送体制の強化が必要。
- 航空燃料以外にも様々な油種が輸送されている中で、取引当事者間において、船を増やすための取組や運賃を上げるといった取引環境の改善に向けた取組等がこれまでどのように進められ、それを踏まえて今後どうすべきなのか、という部分を考えていく必要があるのではないか。
- 今後、航空燃料の生産体制の見直しがあるなら、燃料の生産体制等も考慮しながら、内航船の輸送力の確保について考えていく必要がある。
- コロナで給油を行う人材が減少。積極的な対応を行うものの競争が激化するなか採用が困難。また、スタッフの育成に時間がかかるため即時対応は困難だが、人員体制の構築を進めている。
- 各空港でどのようにインバウンド需要に対応していくかが重要。輸送のロジスティックスが複雑な地域もあり、地域ごとに情報交換含めた協力が必要。
- 新規就航についてどれくらい前から調整を開始できるかは、一概には言えない。
- 航空燃料を安定供給するためには時間的余裕をもって知らせていただきたい。
- 航空燃料の確保に当たっては価格等の条件の問題で契約に至らないケースや短期的にロジを組み直すことができず契約を断念するケースもある。

以 上